十一月宝生会　月浪能

十一月十四日（日）午後一時始
開場 十二時
於 宝生能楽堂

仕舞

生田敦盛 キリ　佐野由於
龍田 キリ　藤井雅之
鵺　辰巳満次郎

地謡　野月聡　東川光夫　高橋亘　佐野玄宜

13:15 三輪

シテ　金森秀祥
ワキ　宝生欣哉
間　石田幸雄
大鼓　安福光雄
小鼓　観世新九郎
太鼓　吉谷潔
笛　小野寺竜一

後見　中村孝太郎　野月聡　高橋憲正　藪克徳

地謡　澤田宏司　小林晋也　小倉健太郎　辰巳満次郎　今井泰行　金井雄資　高橋亘

15:00 萩大名

野村萬斎

野村裕基　野村太一郎

〈休憩十五分〉

15:30 俊寛

シテ　朝倉俊樹
康頼　山内崇生
成経　水上優
ワキ　殿田謙吉
間　深田博治
大鼓　柿原崇志
小鼓　曽和正博
笛　槻宅聡

後見　大坪喜美雄　東川光夫　亀井雄二

地謡　内藤飛能　東川尚史　小倉伸二郎　佐野由於　三川淳雄　田崎隆三　大友順

終演予定　十六時三十五分頃

演目の解説

能「三輪」（みわ）

三輪山の麓に住む玄賓僧都の許に、樒と閼伽の水を持って訪れる一人の女がいました。女は僧都に衣を一枚所望し、衣を手に帰って行く後ろ姿を僧都が呼び止め、住処を尋ねると三輪山の杉を便りに訪ねよと去って行きます。参詣の者から、僧都の衣が三輪明神の杉の木に掛かっていることを聞かされ、僧都が三輪山へ行くと、確かに女に与えた衣が杉の枝に掛かっていました。するとその陰から明神が現れ、神婚説話を語り、神楽を舞い、天の岩戸神話を再現して見せます。

能「俊寛」（しゅんかん）

平安時代の安元三年（一一七七）に、京都の鹿ケ谷で起こったとされる平家打倒の陰謀により罪を得て、鬼界島に流されていた俊寛僧都、入道康頼、少将成経のもとに、天皇の中宮で清盛の娘の安産祈願の為、都より流人の赦免状がもたらされます。三人は喜びますが、赦免状には何故か俊寛の名がありません。俊寛は憤り、使者を責め立てますが、無情にも俊寛だけを残して船は出て行きます…人間の孤独と絶望を描く傑作能。

チケット料金
（税込）
S席　8,800円
A席　7,700円
B席　6,600円
C席　5,500円
D（自由）席　3,300円
※学生は1,000円引き

ご購入は
オンラインチケット
または
宝生会事務局まで

文化庁文化芸術振興費補助金
（舞台芸術創造活動活性化事業）
独立行政法人日本芸術文化振興会